

科目名	教育相談論 Educational Counseling						
科目担当者	雑賀 智子 SAIGA Satoko						
単位数	2	配当年次	3 年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	法学部・法律学科 [専門教育科目 自由科目] 経営学部・経営学科 [専門教育科目 自由科目]					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	教育相談は、児童生徒の多種多様な悩みに対してきめ細やかな対応を行うためのものとされ、学校の基盤的な機能の一つとして位置づけられています。教育相談を適切に行うためには、教師が子どもの悩みの背景にある教育上の諸問題を理解し、子ども一人ひとりと向き合っ て悩みに応じる姿勢を持つことが重要です。本講義では、児童生徒をとりまく環境や心理的な影響に対して教師がどのように向き合うことが有効かという観点から、教育現場における子どもの発達や心理学的な支援の基礎を学びます。 具体的には、カウンセリングの基本的な知識や技法を踏まえ、事例検討やロールプレイを通して教師のカウンセリング・マインドを実践的に理解できること、子どもをとりまく諸問題に関して理解できること、子どもへの適切な対応について学内外での連携を交えて考えられるようになることを目指します。また、講義内容を踏まえた課題により知識の定着と応用力の強化を図ります。						
授業の到達目標	①学校における教育相談の意義と課題を理解する。 ②教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解する。 ③児童生徒の不適応や問題行動の意味並びに児童生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。 ④学校教育におけるカウンセリング・マインドの必要性を理解する。 ⑤受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解している。 ⑥職種や校務分掌に応じて、児童生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示できるようになる。 ⑦いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、児童生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解する。 ⑧教育相談の計画作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取り組みの必要性を理解する。 ⑨地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解する。						
授業計画・内容	1	オリエンテーション・教育相談の必要性と意義					
	2	児童生徒の発達の理解とアセスメント					
	3	児童生徒の行動の学習とその理解					
	4	カウンセリングの基礎知識					
	5	児童生徒を理解するためのカウンセリング技法					
	6	傾聴のためのカウンセリング技法					
	7	不登校の理解と対応					
	8	いじめの理解と対応					
	9	非行の理解と対応					
	10	虐待の理解と対応					
	11	精神的な問題の理解と対応					
	12	学内外における組織的な連携					
	13	保護者との連携					
	14	専門機関との連携					
	15	全体のまとめと補足					
授業外学修 (事前学修)	児童生徒や学校をめぐる諸問題に注目し、最新の情報や気になる点をまとめる（毎週 1 時間 30 分程度）。						
授業外学修 (事後学修)	毎回授業テーマに応じた課題を提出し、諸問題の解決について、教師や社会全体の立場から考えられることを振り返る（毎週 1 時間 30 分程度）。 アセスメントや対応の留意点、カウンセリング・マインド、学内外の連携について、総合的に復習する（15 時間程度）。						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	定期試験 毎回の授業テーマに応じた課題への取り組み					70% 30%	①～⑨ ①～⑨

成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合
教科書	『教育相談ワークブック 新版』桜井美加・斎藤ユリ・森平直子（北樹出版） 加えて、毎回 Moodle で資料を配信します。
参考文献	『学校現場で役立つ 教育相談』藤原和政・谷口弘一 編著（北大路書房）
その他	